

Fire Press

二宮町消防団広報紙

平成22年11月5日発行

Vol.8



僕らは、特別な存在じゃない
とびぬけた才能を持っている訳ではない
ただ、自分でできることで町を守りたい

消防団員は、全国でおよそ90万人 そのほとんどが、仕事を持ちながら活躍中です

自分でできること、はじめよう 消防団



自分でできることで、大切な人とまちを守りたい

やってみたい消防団

やってよかった消防団

二宮町消防団長 杉崎 一夫



日頃より町民の皆様には消防団の活動に深いご理解とご協力を賜り心より感謝し御礼申し上げます。

私たち二宮町消防団は「かけがえのない私たちの町を安全で安心して暮らし働ける町にしたい」という願いのもと、62年もの歴史と伝統のある消防団です。

しかし、近年の就業形態の変化等により消防団員の確保が大きな課題となりました。消防団は、1から5分団まで一個分団15名の団員が職業を持ちながら消防団活動を行っています。そのため自営業、会社員、農業など様々な職業人の集まりの異業種交流会でもあり、年代が近い団員が多いので子供さんを通じての家族ぐる

みでのお付き合いなど地域社会との接点を持つための、とても良い機会が消防団活動により得られると思います。その活動で得られた結束力や絆は一生を通じて大事な宝物となっていきます。「やってみたい消防団 やってよかった消防団」を目指して日々活動に励んでいます。あなたも是非「新たな消防団の力」となって参加してみませんか!!

平成22年度 全国統一防火標語

「消したかな」あなたを守る 合言葉

消防団って？


地域の消防団を知っていただくために

消防団は、本業を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活躍している人たちが集まる、市町村の消防機関の一つとして、ほとんどすべての市町村に設置されています。

消防団員は、消防・防災に関する知識や技術を習得し、火災発生時における消火活動、地震や風水害といった大規模災害発生時における救助・救出活動、警戒巡視、避難誘導、災害防ぎょ活動などに従事し、地域住民の生命や財産を守るために活躍しています。

また、平常時においても、訓練のほか、応急手当の普及指導、住宅への防火指導、特別警戒、広報活動などに従事し、地域における消防力・防災力の向上において重要な役割を担っています。

二宮町

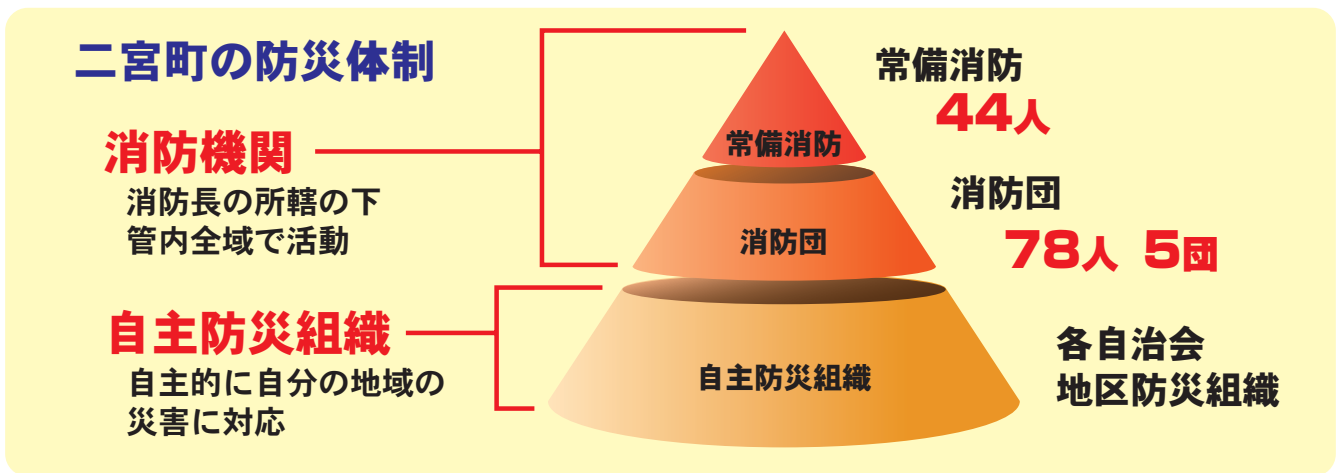


常備消防機関
二宮町消防署
44人
機動力、即時対応力がある。
(警備隊は、2交代制)

+

協力

非常備消防機関
二宮町消防団
78人 5団
動員力、地域密着性がある。
会社員(サラリーマン)団員約70%

二宮町総合防災訓練

- 【第1部】平成22年7月25日(日)、梅沢海岸
陸上自衛隊協力、物資海上輸送訓練他が行われました。
- 【第2部】平成22年8月22日(日)、山西小学校(中央会場) 他
防災体制の確立と防災意識の高揚を図るため、地域住民、町の防災組織、民間協力団体他が協力して、行われました。
消防団は、消火訓練、応急手当訓練、放水訓練等を行いました。



消防団の魅力 やりがいって？

団員の声 ●●●●●●●●●●



剣持 貴宏 (第一分団)

人として成長できる消防団

消防団活動は2年目になります。

入団に際しましては、かねてから、職場に在籍していた団員やOBの方々が火災となれば一目散に飛び出して行く姿を何度も目にしていたこと、以前の上司の内2人が第一分団OBという縁もあり、お誘いをいただいた時には、さほど悩むことはありませんでした。

月に数回の訓練や器材点検は、放水も大事だが何より自分自身が怪我をしないことが一番だと先輩方にはたくさんの愛情を持って基礎からご指導いただいていますので、辛いと思うことはありません。

また、火災時を始め数多くの場面で面倒を見て下さるOBの方々や、活動中に暖かい言葉をかけて下さる地域の方々など、家族も含めてたくさんの方々に支えられていることを感謝するとともに、団員同士はもちろん、様々な交流の機会がぐんと増えましたし、人として成長できる消防団に入団してよかったと思っています。



沖 直弘 (第一分団)

かけがえのない仲間

地域のために少しでもお役に立てればと、昨年入団させて頂きました。毎月の定期訓練・車両点検、地域の防災訓練への参加、火災予防運動など活動内容は幅広く、最初は戸惑うことの多い日々でしたが、諸先輩方々の、

町民の安全な生活を守るという高い意識、仕事・家庭の忙しい時間を割いて消防団活動に取り組む熱い志に大変感銘を受けました。

また、消防団に入って感じた事は、厳しい訓練や楽しいレクリエーションなど苦楽を共にする“かけがえのない仲間”を築くことができる事や、地域の幅広い年齢層・異業種の方ともコミュニケーションを取ることができるなど、サラリーマンの自分には到底得ることの出来ない貴重な財産を得ることができるという事です。

今後は諸先輩方々が脈々と築いてきた防災に対する高い意識をしっかりと受け継ぎ、この美しい海と緑に囲まれた二宮町の豊かな自然と、子供たちの笑顔がいつまでも続くよう、日々頑張りたいと思っています。



大東 克司 (第三分団) 消防団活動の一年を振り返って

入団して一年、すべてが新しい体験ばかりで有意義な時間だったと思います。

器具の扱いや放水など、訓練での先輩団員の指導のおかげで少しずつではあるけど技術を習得できたのも、自分では大きな進歩だと思っています。

入団前は仕事や家庭との両立が難しいのかなと考えていたけど、思い切って入団してみれば、応援してくれる家族や消防団を通じて、多くの人と知り合えたことを大変うれしく思います。まだまだ、覚えることばかりですが、これからも活動を通じて、地域に貢献できるよう頑張りたいと思っています。



北嶋 純一 (第二分団)

二分団に入団して

二宮町に引っ越してきて、3年目に消防団への入団の勧誘をうけました。

ボランティア活動の経験もなく、39歳と言う年齢とサラリーマンをしている私にとって消防団活動が務まるかと悩みました

が、地域の方々に子供たちをはじめお世話になっておりましたので、今、自分に出来ることをと思い入団を決意しました。

最初は戸惑いや不安ばかりでしたが、消防活動に関する基本操作なども先輩方々が熱心に分かるまでご指導してくださり、また、毎月の定期訓練などに参加する事により、徐々にではありますが環境にも慣れ、今では楽しく活動に参加させていただいております。消防団OBの方に、地域を知るうえでは、消防(団)に参加するのが一番だとも教えていただきました。

普段の生活で、知り合えない方々にも知りあえた事、地域に仲間が出来た事が何より入団して良かったと思います。

今後も、地域の皆様の為にも出来る限り努めて行きたいと思っています。



岩田 勝利 (第二分団)

消防団に入団して

小学生ぐらいの頃、父親が入っていた消防団。子供ながらに少し誇らしく見ていたのを覚えています。

それから20年余り、自営業だったせいか、いつかは入るんだろうな〜とは思っていましたが、とうとう声が掛かり入団することになり、もともと現役の団員、OBの方々にも知り合いがたくさんいたので、気楽に入ることができました。

実際、入団してみると、いろいろと覚える事が沢山あったり、いつ火災がおきるか分からない緊張感、実際の火災出動など大変な思いや、貴重な体験もりましたが、さまざまな職業・年齢の仲間と出会えたことで、とても刺激的な消防活動を過ごしています。

これからも、この仲間たちと一緒にお互いを助けあい、消防活動を通じて自分自身を一步一步成長させて行きたいと思っています。

新入団訓練

平成22年4月：二宮小学校校庭

平成22年度の新入団員は、13名。

消防署員の指導のもと、基礎訓練が行われました。

消防操法等は、難しいものではありません。誰にでも出来るものです。器具操作では確認作業が大切になります。



火災予防運動

防火啓発活動を行っています。

「防災意識を高めるよう」消防車による広報活動・巡回の他、消火栓・防火水槽の点検等を行います。

- 秋の火災予防運動 11月 9日～15日
- 歳末火災特別警戒 12月25日～31日
- 春の火災予防運動 3月 1日～ 7日

期間中、「お休み前の火の元点検サイレン」を21時より30秒間鳴らします。
 火災が発生しやすい季節(期間)なので、御理解のほど、よろしく願います。

消防団活動いろいろ



体力錬成大会 消防職団員の体力・士気高揚・親睦を深めることを目的に毎年実施、ソフトバレー等を行います。



家族慰安会 鈴廣かまぼこ：四分団



団員で大山登山 五分団



夏祭り警備 二分団

救急救命・AED講習



救命に必要な応急手当の基礎的知識及び技能を習得するための講習です。

消防団員募集

「自分たちのまちは、自分たちで守ろう。」

成人男子の方で消防団活動に協力して下さる方を広く募集しています。
 より多くの方に消防団活動を経験してもらい、地域防災の一翼を担っていただきたく願います。任期・活動内容等は各分団ごとにことなります。



- 公務災害補償制度
- 被服の貸与
- 退職報償金
- 表彰制度

問い合わせ
 消防本部 消防課
 ☎72-0015

- 第一分団 (川匂・釜野・越地・茶屋・梅沢)
- 第二分団 (上町・中町・下町)
- 第三分団 (元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根)
- 第四分団 (中里・百合が丘1丁目)
- 第五分団 (一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目)

消防団は、通常は自らの仕事を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の人たちのため、社会のために活動している人の集まりです。